

鶴岡ロータリークラブ会報

837

1976-1-6 No.28

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 勲

◆ 点 鐘

◆ 君 が 代

◆ 年 の 始 め

◆ ロータリーソング (奉仕の理想)

◆ ビジター・ゲスト なし

◆ 会員奥様誕生祝 (親睦委員)

◆ 月間・年間出席表彰 (出席委員)

◆ 会長年頭の挨拶 (後述)

◆ 会長報告

- ・岩網末松君 一身上の都合により12月末日にて退会
- ・岩網君退会に際し、財団あて50,000円寄贈
- ・クラブ協議会 13日午後3時より実施
クラブ後半の活動計画に伴う予算編成打合
- ・国際奉仕委員会 昭和51年第3回交換学生受入れを決定
- ・交換学生齋藤太一君より近況便り(後述)

◆ 幹事報告

- ・温海RC 1月12日(月)午後4時より たきのや旅館 登録料 2,500円
- ・八幡RC 1月10日(土)午後5時より 後藤屋旅館 登録料 3,000円
- ・4種会第2回強勉会 1月11日(日)午後1時より 仙台市民会館 参加料 1,500円

◆ 会員スピーチ 早坂源四郎君(後述)

安藤 定助君(後述)

◆ 委員会報告

- ・国際親睦委員台中表敬訪問 22名参加予定 説明会 1月14日午後6時 ひさごや
- ・社会奉仕委員会
インターアクト親善研修旅行団 1月4日元気に出発 1月11日羽田へ帰国予定
- ・家族新年会実行委員会 1月13日 新年会最終打合実施

◆ 出席報告

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING 人間に威信を!

年 頭 挨拶

会長 佐藤 忠

●会員の皆さま新年おめでとうございます。今年の正月3日間は20年ぶりという静かなよいお天気に恵まれたようでございます。去年の元日も確かよいお天気で鈴木前会長はご挨拶で「今年こそは元日のお天気のように晴れやかな年であることを熱願するものである」と申されましたが、石油ショック以来、遂に3年続きの不況風にさらされました。私も今年こそはと再び念願するものでありますが、余り明るい情報は見当りません。福田さんの言を借りれば、石油ショックで3年の重症を負ったのですから、今年は自宅療養の年かも知れません。しかしこのような不況の時こそ、みんなに公平な、みんなのためになる明るい社会づくりと豊かな心の成長のためロータリアンとして1人1人が何かを考えねばとも思う次第でございます。そしてボールハリスの創立精神を今一度振り起したいものです。

●扱て去年は卯、今年は辰だから「卯辰（ウダツ）があがらない」とはある新聞の経済放談の言、元日の子供番組テレビで竜の足は何本か？ 4本と答えてましたが、竜は十二支の中で唯一一つ実在の動物ではないらしい。すばらしい力を持った想像のものらしい。よく見る絵や彫刻には、昇竜と降竜があります。羽黒山にも石段坂道を昇りつめた茶店の奥左側に小さな社があり両側の柱に確か昇竜と降竜があったように覚えてますが、仲々立派なものと気憶しております。それから「潜龍千年」という言葉があるようですが、竜は深い淵の中で千年もごちと耐え修業を積み、時節到来すれば人目にも見えない速さで天に昇り、雲をおこし、雨を降らす不思議な力の持ち主であるとも言われております。この地方の百性は昔から善宝寺（龍神）の方角をみて天気急変を知ったようです。あの方角に天から辰が降りて来たら、間もなく俄雨（雷雨）がやってくると思っていたのです。今考えれば上昇気流による海上の龍巻であります。龍の念力も旱天には慈みの雨であり、又暴風雨ともなれば災いをもたらすのであります。辰年の龍が昇竜であり旱天の慈雨であることを期待したいものです。

●ロータリー年度も各委員会活動と会員のご協力により、その前半を大過なく経過させていただきました。特に今年度新しいアイデアのもと企画実施されましたSAAの例会日支関での歓迎は大変好感と高評のものと思っております。社会奉仕の大山自然公園樹木名札取付け、市社会福祉協並びにNHK歳末助合い寄附、青少年委のボーイスカウト援助（天幕寄贈）国際奉仕では財団契学生派遣又会報の内容充実次週発刊誠にご苦労さまでございました。前半期の活動に対し深謝申し上げます。後半の活動については13日クラブ協議会で更に検討を加え、I C海外研修派遣（1月4日出発）国際親睦委の台中港区姉妹クラブ訪問、家族ぐるみの親睦活動、出席率の向上、財団寄附等その具現化を図り、年度始めにお願い申し上げたように全会員参加による奉仕活動によってR I会長の示された「人間に威信を」を目標に捻りある実績を挙げられますようよろしくご協力をお願い申し上げます。

交換学生 斎藤太一君よりの近況

鶴岡ロータリークラブの皆さん新年明けましておめでとうございます。私のアメリカ生活も4ヶ月目に入りましてから一層充実して参りました。これも全世界的なロータリークラブ、そしてその中で活動していらっしゃる皆さんの暖い御支援の下に日本人学生の代表として海外において1年間勉強できるというチャンスを与えて下さったことにたいへん感謝しております。やはりアメリカの学生生活は日本のそれとはかなり違いましていろいろな驚き、勉強になるものがたくさんあります。それらを混じえて、こちらの様子をお伝えします。

私がお世話になっているところは人口3万人程の町で、町の周辺は大きな農業地帯です。人口3万人と言うと小さな町ですけれども、中心部は結構高いビルディングもあり工場などもたくさんあります。この町のロータリアンは120人程で週に一度の会合には60人ぐらい集まりたいへんにぎやかです。私も3回出席させていただき昼食を取りながら、ほくの町鶴岡の紹介などをしました。

さて、私が最初にホストファミリーとしてお世話になったのが3人の雇用人を雇いお花やさんを経営して、いらっしゃるMr. ワイヤリックさんという方で、ほくがお世話になる前に中央アメリカのグマテマラという国からの学生を2回も世話をしたことがある方です。彼の家族の皆さん14才の女の子、16才の男の子と供にたいへんすばらしい3ヶ月間をすごしました。ほくの学校は普通の高校とちょっと違って、各町のハイスクール（高校）から、高校卒業後、直に職に付きたいと思っている生徒が、高校年間の最後の1・2年間を勉強するというものでアメリカでも新しいタイプの学校です。建物そのものも1階建てですがたいへん大きく、驚くことにコースが30もあり、日本の実業校、工業、商業、農業はもちろんテレビなどのカメラマンになるためのコース、掃じ人になるためのコース、お花やさんになるためコース、病院など

で生まれたばかりの子どもの世話をするコース、板金やさんになるためのコース等、たいへんコースが細くなっていて、その道の教育内容は相当高いものです。そしてこの学校は生徒たちにたいへん人気があります。このことはやはりアメリカの一つの職に対する人件費が日本のものから比べると高く、結婚しても共稼ぎすれば十分に生活が営める。そういう点がアメリカ学生の考えのようです。

ぼくが取っているコースは機械工作で午前中の4時間を工場で実際に製品を製作、昼食のあと1時間の英語、2時間の教室での製品製作のための数学、理論、コンピューターの操作、コンピュータープログラムなど結構内容も濃くたいへんためになっています。英語をのぞくすべての科目を教えてくれる先生も有名な方で高校の教科書を実際に作っていらしゃり、ぼくが留学生であるもんで授業が終わってからわからなかった点などをわざわざ教えて下さいます。おかげさまで成績もAとBです。勉強においてはほんとうに充実したものを感じています

友だちもたくさんできて、工場で勉強するときなどは生徒全部とお互い心をゆるして、いろんな冗談をとばしあっています。それから世界中の国から来ている学生と話すことも楽しみの一つです。フランス、スウェーデン、ドイツ、特に中央、南アメリカの生徒が多く、いろんな生活様式の違い等を知ることができます。中央、南アメリカというところは興味あるところで、日本やアメリカ、ヨーロッパ諸国のように中流家庭というのがなく、お金持と貧乏人、それは招使を4、5人と持っているということを知らせておどろいています。

今、お世話になっている御家族は奥様が日本人で、彼女は小学校の校長をなさっています。彼女のお父さんがニューヨークで日本レストランを経営していて、日本料理をときどき送って下さりたいへん満足しています。それに奥様が日本語を少し話しますので生活には便利です。2度目のこの御家族との3ヶ月間もすばらしいものになりそうです。

このように私にすばらしいチャンスを与えて下さった皆さんに改めて感謝してペンを置かせていただきます。さようなら

齋藤太一

年 頭 所 感

早坂源四郎君

元旦早々張切ってしまったら逆に風邪をひき張先生の御世話になって居ります。男網君が退会すると聞いて極力残られる様話をしましたが残念です。年男としてスピーチという事ですがロータリーの雑誌週間でもありますので今日は「ロータリーの友」の宣伝をさせていただきます。

1月号に鎌倉在住359地区直前ガバナーの山田宗田さん(茶道宗偏流家元)の記事がのって居りましたが私も一読して感銘しましたので御披露を致します。

「三級浪高魚化竜」(さんきゅうなみたかくしゅうおりゅうとけす)これは有名な碧巖録の一句ですが、魚がやたらに竜になるのではなく優秀抜群の大魚は三級の滝という非常にけわしい滝を飛びこえ激流をのぼってはじめて竜となるのだそうです。よく修業をつまねば竜となり上天出来ないという教へと思います。私も今年は大いに勉強を重ね、徳をつんで竜となり上天したいと考えて居ります。

年 頭 所 感

安藤定助君

「耕心」理事長 菅原兵治氏「年頭三題」から

「丙辰の年について」

(1) 昭和51年の干支は「丙辰」―「へいしん」＝「ひのえ、たつ」―ですから、たしかに辰(たつ)の年ではありません。

(2) しかし「辰」(しん)という字には「竜」という意味はありません。日月星辰などいう熟語もあるので「辰」は「ほし」でありまして、新しい時勢の黎明期とでも申しましょうか。1年の時節でいうと陰暦の3月(陽暦でいうと4月頃)、1日の時刻でいうと朝の8時頃がこれに当るのを見てもわかるであります。随って運勢の最盛期は、もっと先にいって「巳」(み)から「午」(うま)―52～53年―の頃になると見るべきであります。

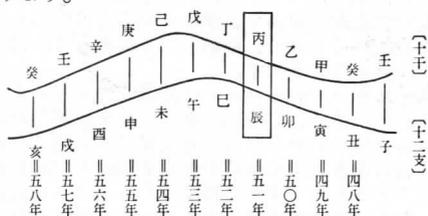
(3) しかし、これは十二支の方のことで、これに甲乙丙丁……十干が組合せられて、昭和51年は「丙辰」の年となるのであります。この干支の組合せによる「丙辰」―「へいしん」＝「ひのえ、たつ」―という年は、60年に一度しか来ないのであります。「辰の年」というのは12年に一度ずつ来るのですが、それと十干との組合せは次のようになり、同じ辰の年といっても皆同じではないのであります。

大正5年	丙辰(ひのえ、たつ)	昭和3年	戊辰(つちのえ、たつ)
昭和15年	庚辰(かのえ、たつ)	昭和27年	壬辰(みずのえ、たつ)
同 39年	甲辰(きのえ、たつ)	同 51年	丙辰(ひのえ、たつ)

上記のようなわけで、同じく辰の年といっても、丙辰の年は60年前の大正5年(1916—第一次世界大戦戦時中)以来初めてのことなのであります。

(4) そこで今回の場合の干支の組合せと、それに伴う運勢の動向を図解してみると、次のようになるのであります。

(この運勢図解については昭和49年正月号で詳説しておきましたので、御参照下さい)



これによって見ると、前周期の高度成長路線—そしてそれは「機械化」「合理化」を二本の柱として、誇らしくも大いなる自負を以て驕進して来た「近代化」路線であるのだが、それが—昭和48年を以て、一応の終止符を打たれたということになるのである。そして49年の「甲寅の年」からは、全く新しい路線に転換して来たのである。それを世間では「不景気」というが、見ようによっては「正常化」の為の「収縮」でもあるのであります。

(5) この不景気がいつ立ち直るか。もちろん誰もが昭和48年以前のような姿に帰るなどとは考えぬであろうが、それにしてもいつ落ち着くのか。これを上記の干支の運勢図で見ると、51年では「いまだし」である。次第に安定—の方向に向ってはいはるが、新なる路線に転換して、その線に随っての安定の広野に出るのは、昭和52年の下半期から53年にかけてであろう。(このことは12月8日に、河本通産大臣も政府の見解として明らかにしたことである)

(6) 図解の線によると、54年以後は下降線をたどるように見えるであろうが、しかしそれは必ずしも不景気ということではない。ちょうど草木における秋冬の収穫のようなもので、新なる路線による新なる形態の「みのり」得ることと解してよいであります。

(7) 次に「丙辰」の「丙」について一言しておきましょう。丙の字にはいろいろの解釈があるが、**丙**で、地中には根を出し、地上には二葉を出した象形であるというのが解りやすいと思う。そこで二葉を出して、その作物が豆であるか、麦であるかが、あきらかにわかって来るので、この字を「あきらか」と訓み、「炳」の字としても用いられるのである。「申」も「乙」も共に芽を出したばかりの象(かたち)であるが、それが「丙—となって「あきらか」になり更に「丁」となつて一人前(壮丁)となり、「戊」になって茂つて来ると……なるので、随って十干の方からいっても、昭和52~53年にならなければ、新しい路線の本当の安定したすがたは出て来ないと思ふべきであります。

51年の「丙辰」の年をこのように見て、さてこれに処してどうすればよいか。52~53年に真の安定を得るために備えて、対内的の改善充実と、対外的の信用の向上とに努力すべき時ではないでしょうか。

その意味からすれば「今年もまだ景気がよくならぬのか」などとかこつただけでなく、こういう時にこそ、潑刺旺盛な「元気」「生氣」を振るい起して、創造化育の力を發揮し、魅力ある人となり、魅力ある仕事をすべき時でありましょう。

会 員 誕 生

板垣俊次君、海東与蔵君、佐藤伊和治君、三井健君、玉城俊一君、吉野勲君、鷺田幸雄君

興 様 誕 生

五十嵐とし様、中野悦子様、高橋美津子様、谷口美代子様

年 間 皆 出 席

16年間皆出席 張 紹淵君 15年間皆出席 三井 徹君 15年間皆出席 嶺岸光吉君

12月120%出席 6名

阿部(襄)君、小花君、中江君、佐藤(忠)君、佐藤(友)君、谷口君

12月100%出席 45名

出 席 報 告									
本日の出席	<table border="1"> <tr> <td>会 員 数</td> <td>70名</td> <td rowspan="3">欠席者</td> <td rowspan="3">五十(伊)君、板垣君、玉城君、風間君、今野君、三井(徹)君、佐藤(友)君、菅原(啓)君、鈴木(善)君、高橋(正)君、高橋(良)君、菅原(辰)君</td> </tr> <tr> <td>出 席 数</td> <td>58名</td> </tr> <tr> <td>出 席 率</td> <td>82.86%</td> </tr> </table>	会 員 数	70名	欠席者	五十(伊)君、板垣君、玉城君、風間君、今野君、三井(徹)君、佐藤(友)君、菅原(啓)君、鈴木(善)君、高橋(正)君、高橋(良)君、菅原(辰)君	出 席 数	58名	出 席 率	82.86%
会 員 数	70名	欠席者	五十(伊)君、板垣君、玉城君、風間君、今野君、三井(徹)君、佐藤(友)君、菅原(啓)君、鈴木(善)君、高橋(正)君、高橋(良)君、菅原(辰)君						
出 席 数	58名								
出 席 率	82.86%								
前回の出席	<table border="1"> <tr> <td>前回出席率</td> <td>74.65%</td> <td rowspan="3">メークアップ</td> <td rowspan="3">阿部(公)君、張君、五十嵐(三)君、小花君、嶺岸君、三井(健)君、葉原(啓)君、清水君、一鶴岡西RC</td> </tr> <tr> <td>修正出席数</td> <td>61名</td> </tr> <tr> <td>確定出席率</td> <td>85.92%</td> </tr> </table>	前回出席率	74.65%	メークアップ	阿部(公)君、張君、五十嵐(三)君、小花君、嶺岸君、三井(健)君、葉原(啓)君、清水君、一鶴岡西RC	修正出席数	61名	確定出席率	85.92%
前回出席率	74.65%	メークアップ	阿部(公)君、張君、五十嵐(三)君、小花君、嶺岸君、三井(健)君、葉原(啓)君、清水君、一鶴岡西RC						
修正出席数	61名								
確定出席率	85.92%								